

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名：古賀明美

所属：御船が丘小学校

記録日：2022年2月26日

キーワード： AD/HD, 読み書き障害, 自己理解の向上, 学び方の理解、

【対象児の情報】

- ・学年 6年/12歳
- ・障害と困難の内容

興味関心のあることには集中力を発揮するが、文字の多い文を読んだり、意味を理解したりすることを苦手としている。また、授業中はきちんと着席しているが、急に授業と関連しない内容を話し出したり、提出しなければならない課題を出さなかったりすることが多い。

文を読んだり、内容を読み取ったりすることを苦手としている。常に体が動いたり、友達の嫌がっていることに気が付かなかったりする。

- ・使用した機器に

Pad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

- ・当初のねらい
- ・ICT機器を活用して授業中の困り感を軽減し、能動的に授業へ参加する。
- ・客観的に自己を見つめTPOに応じた言動に気づき、実践しようとする。

これらの姿を目指して本児の学習を支えるために必要な力をつけ、年齢相応に求められる社会性について本児なりに気づくことにより、スムーズに中学校へ移行できるのではないかと考えた。そこで目標を以下のように立てた。

目標1：文を読み内容を正しく理解する。(主として通級指導の中で、重点項目として実施する。)

目標2：学習活動に自ら参加したり、課題を完遂したりする。(主に在籍学級の中で日々の指導の中で実施する。)

目標3：自分の言動に気づく。(興味関心の高いものに取り組んだり、話題にしたりする中でより適切な言動について考える機会として通級指導、在籍学級の両方で連携しながら進めていく。)

- ・実施期間

令和3年4月15日から令和4年1月26日まで

- ・実施者

古賀明美(野田せい子)

- ・実施者と対象児の関係

通級担当者と通級児童(在籍学級担任と在籍児童)

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

(目標に関する状況)

目標 1 文字は丁寧に書けるが、音読したり問題を正しく理解して答えたりすることが苦手で、イメージが広がりにくい。国語が得意と自分では言うが、5年生までの基礎的な文章や資料を読み取る力が身につけていない。

目標 2 授業中は静かに着席しているが、授業に関連のない本を読んだり板書を写さなかったりする。また、指示に従わず、課題提出ができないことが多い。Chromebook でクラスルームから課題提出方法について説明を聞いている途中で動きが止まり活動しようとする様子が見られない。

目標 3 興味関心のあることには集中するが、興味が短時間で移りやすい。細かいところまでこだわって製作するあまり全体の作業が雑になることがある。友達につられて不適切な言動をとることがある。

(基本情報)

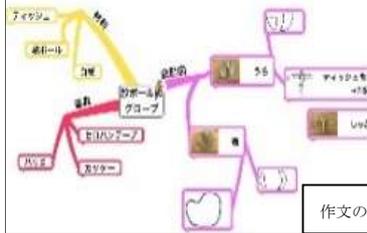
- ・ WISCⅢと参考値であるが LCSA の結果から、本児は言葉を聞いて理解したり推理したり説明したりすることが難しいため、自分にとって処理しやすい枠組みや文脈の中で理解して行動することが多くなる傾向にあると考えられる。このため、結果的に不適切な言動となっていることが考えられる。
- ・ 通級指導教室 4 年目 (採択者とは 2 年目、前任者は共同研究者で現担任)

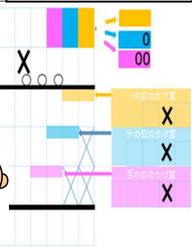
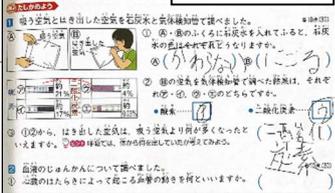
・活動の具体的内容

通級指導時間は、週 1 回 (水曜 1 時間目)。研究協力者との連携は随時行った。

目標 1. 文を読み、内容を正しく理解する。

学習上の困り感を軽減するには読解力を上げるために問題文そのものの解き方を理解する必要があると考え、以下の活動を行った。

文を読み、正しく内容を理解するための活動 (採択者の関わり方)	手立ての中での ICT 活用の位置づけ	具体的な活動 (★は Chromebook での活動)
<p>・ 言葉をイメージできるようにする。 (アプリの操作を教え、慣用句やこそあど言葉の意味理解を図り、大事なことの読み取り方について指導する。思考の見える化を図る。)</p>	<p>・ 検索</p> <p>・ 読み取り</p>	<p>・ 単語や漢字の意味検索、成り立ち、語用、図などの検索により単語の意味や単語間のつながりを把握する。</p> <p>・ 慣用句の意味を理解したり、大事なことは何かを読み取ったりする練習をする。</p>
 <p>作文の構想マップ</p>	<p>・ 思考の整理</p>	<p>・ マインドマップにより思考を整理し作文の構想を立てる。</p>

<p>・問題の解き方を理解する。 (簡単な読解のドリルや6年生の夏のドリルを用意し、解き方の解法を説明する。)</p> <p>そういうことか!</p>	<p>掛け算の筆算シート</p>  <p>6年生の夏ドリル</p> 	<p>・採択者が撮ったページの写真を GoodNotes5 に保存し、答えを手書きで記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解き方の解説を聞く。 ・筆算の解き方シートを使って計算する。
<p>・アプリゲームの活用 (本児の興味関心に向くものを探し、適宜提示する。)</p> <p>今日も体を動かすやつやりたい。</p>		<p>・アプリやサイト★を活用(興味・関心の拡大、ビジョントレーニング、学習系(漢字・計算等)する。</p>
<p>・ICT 機器の活用 (Chromebook で入力する Google クラブルームなどで課題を設定し、使い方を適宜指導する。)</p>	<p>・Chromebook の活用</p>  <p>タブレットペン、貸してください。</p>	<p>・★入力方法(手書き、音声、フリック)や課題提出を練習する。</p> <p>すぐに、自分で手書き入力モードにする。</p>

目標 2. 学習活動に自ら参加したり、課題を完遂したりする。

学習活動に参加するために必要な ICT 機器を操作する技術の練習は主に通級の実施した。

学習活動に自ら参加したり課題を完遂したりするための活動(採択者の関わり方)	手立ての中での ICT 活用の位置づけ	具体的な活動(★は Chromebook での活動)
<p>・学級での取り組み 学級担任(研究協力者)による日常の教科指導や生活支援(ユニバーサルデザイン的な声かけやルールなどの依頼を行う。)</p> <p>先生、今日、何ば出すと?</p>	<p>在籍学級では電子黒板が中心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の使用  <p>先生、今日、両面解けたよ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の学習をし、学級担任の声かけにより課題を提出する。 ・プリント等を教師と一緒にしたり、助言を受け取り組んだりして課題を完遂する。 ・クラスルームからジャムボードなどの課題を提出する。

<p>・通級での取り組み (採択者と研究協力者との打ち合わせによるソーシャルストーリーを作成する。 Chromebook の使い方やクラスルームからの課題提出を設定する。)</p>	<p>通級の場合は本児の Chromebook 中心</p>  <p>先生、(日付の課題を) 出したばい。</p>	<p>★通級の日付をクラスルームから課題提出する。 ★Meet で画面を表示する。 ★クラスルームにある資料(ドキュメント) ソーシャルストーリーを読む。 ・課題の解き方を練習する。</p>
--	--	---

(授業中に考えることに集中するための活動)

- ・本児が考えることに集中できるようにするための支援であることを伝える。
- ・本児がわかりやすい言葉に言い換えて伝える。
- ・何のためにするのかを事前に伝え、解決までの道筋を示す。
- ・どこを見て何を考えればいいのかという道筋を示したり、具体的な解決のヒントを提示したりする。

目標 3. 自分の言動に気づく。

自分に有用な機器を積極的に活用し、どんな時に使用すればいいのかを知って便利さ・良さを実感できるようにした。

自分の言動に気づくための活動 (採択者の関わり方)	手立ての中での ICT 活用の位置づけ	具体的な活動 (★は Chromebook での活動)
<p>・年齢相応の言動について知る。(ソーシャルストーリー(学校で学ぶこと、常識とは)を作り、提示する。)</p>	<p>・★Google クラスルームの活用(ドキュメント)</p>  <div data-bbox="778 1075 1417 1198" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>ソーシャルストーリー (一部抜粋)</p> <p>大人は、ルールやマナーを守りながら生活します。それを常識と言います。大人が常識の中で生活するのは、気持ちよく過ごせるからです。 例えば、会社員は決まった時間に出勤して仕事をしま</p> </div>	<p>・年齢相応の行動を記したソーシャルストーリーを読む。★</p>
<p>・自分の言動について振り返る。(共に大切にしたい言葉について考え、構想を練る。自尊心測定尺度についてのアンケートを作る。)</p>	<p>・★マインドマイスター ・★Google クラスルームの活用(forms)</p>  <div data-bbox="766 1467 962 1568" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>桑田真澄の一言がよか。</p> </div>	<p>・マインドマップによる思考の整理をする。 ・大切にしたい言葉(作文単元)での思考の整理と作文の構想をすることで頑張っている自分を自覚する。 ・アンケートに答える。</p>
<p>・自分の言動について選択肢から回答する。(学習を支えるために必要な力についてのアンケートを作り、提示する。)</p>	<p>・★Google クラスルームの活用(forms)</p>  <div data-bbox="750 1646 954 1825" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>がんばりたいか 説明(省略)</p> <p>次のうち、がんばりたいと思う力がありますか?</p> <p><input type="radio"/> ・覚えたり、覚えておく力</p> </div>	<p>・答えを選択して自分の考えを持つ。 ・自分の行動を振り返るきっかけとする。</p>

・対象児の事後の変化

- 1 少し長い文章でも問題文に合わせて印をつけながら考えている。Chromebook を使って課題提出をしたり手書き入力で検索したりしている。回答に悩んでも解説を聞きながら最後まで取り組むことができる。テストの点数が取れるようになってきた。板書は、ほぼ書くようになった。
- 2 授業時間内に課題(プリント等)を提出したり指示に従って活動したりし最後まで取り組んでいる。また、授

業中に勝手に本を読まなくなったり、友達（ミニ先生）からの援助を受け入れ、説明を聞いたりするようになった。

3 廊下ですれ違う時、いつでも手を挙げて「よっ、先生！」とあいさつしていたが、最近は周囲に同級生がいるとき、あいさつしないこともある。研究協力者や副担任的級外の指示や注意に耳を傾け、自己の行動を調整できるようになってきた。

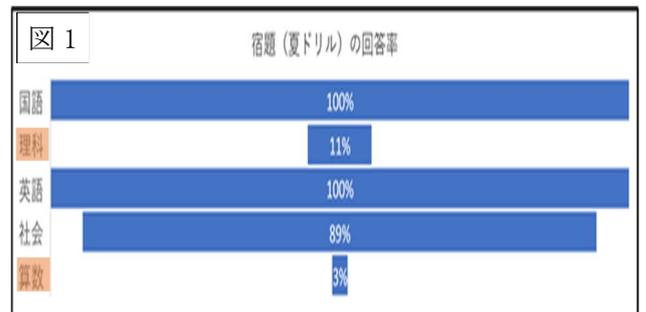
【報告者の気づきとエビデンス】・主観的気づき◎とエビデンス（具体的数値など）★

目標 1 と 2 に関連して

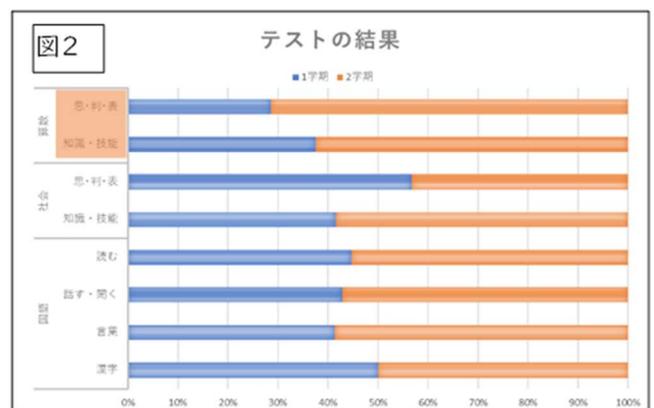
◎今まで理解できずにいた算数の知識、問題の読み取り方を理解できたことで学びの自信につながった。

- ・ICT 機器（iPad mini）の GoodNote を活用した（必要に応じて画面を拡大したり印をつけたりしながら解く）ことで読みのペースを自分でコントロールすることができ、読みにくさをカバーしたのではないかと考える。
- ・ベースの『文の読み取り』に焦点を当てていたが、算数についても必要な知識・解き方が理解できたことで成績の伸びにつながったと考える。
- ・ICT 機器（iPad mini）が使用できなかった場合、書き消しの煩雑さやどこを見ているかわからなくなる状態などから混乱したと考えられ、本人の読み書きを補完することが難しかったと思われる。なぜならば、読みたい部分を拡大して見たり、自分で’ / ’を入れたりができないことから、書いたり消したりという作業は手間がかかるものと捉えて嫌がったのではないかと考える。

★①夏のドリルの問題について課題の問題そのものの意味がわからず、回答できていなかったことがわかった。（図 1）特に、理科の問題については口頭で確認すると実験を理解していた。それが印刷の問題文となると意味がわからないでいる。おそらく、文と図やグラフなどの資料との関係をつかめず、意味がわからないでいるのではないかとと思われる。一方、算数についても同様な様子が見られた。ただ、面積の公式や分数の四則計算など意味が理解できれば自分で使うことができるようになった。両面の問題を授業中に完了した時には教師に「全部解けたよ！」と報告する姿も見られている。



②学級の成績が向上している。1 学期の国算社の成績と 2 学期の国算社の成績を合計 100% で比較した。すると、全部の教科科目で伸びが見られる。特に算数の伸びが大きかった。（図 2）※理科は担任が授業に出ていないため、比較対象としなかったが、解法や知識の指導は行った。



目標 3 に関連して

◎自覚している自分の長所短所や社会的に期待されている年齢相応の行動への気づきの本児の学習活動を能動的な態度へ変容させた。

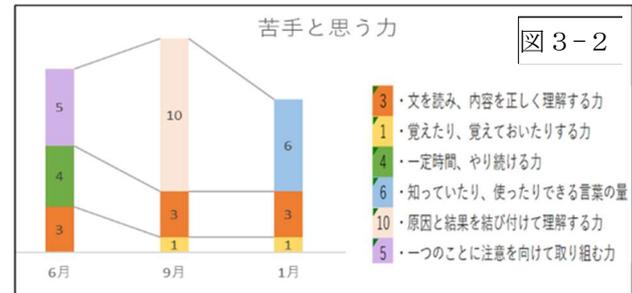
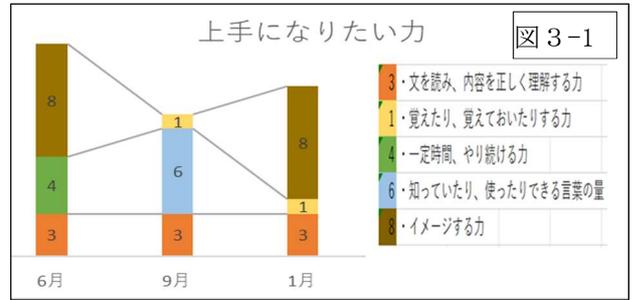
- ・ソーシャルストーリーをはじめとした日々の指導・支援により自己認知が向上した。それにより、見通しと学習のスキルが身に付きつつあるので、授業中の能動的な行動につながったと考える。
- ・アンケートはすべて forms で実施したが、紙媒体での提示では、そもそも読もうとしなかったのではないかと考える。

★①本児の自覚は一貫して文を読み内容を正しく理解する力が苦手なこと（図3-2）、だからこそ上手になりたいと思ったと考えられる。（図3-1）また、覚えておいたりする力も苦手である自覚がある（図3-2）ので上手になりたいと思っている（図3-1）ことが考えられる。これらの自覚が自分の行動への気づきにつながったのではないだろうか。

②読み書きや読み上げの学習時の姿勢も変化している。（写真1、2）

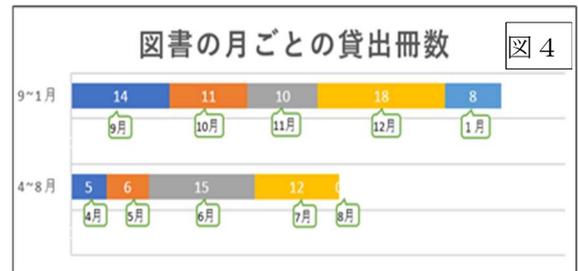


- ・ iPad mini の Goodnote は本児が好んで使っていた。画像への書き消しのしやすさが要因と考える。
- ・ また、担任（研究協力者）の声かけや手助けだけでなく、かかわりの少ない級外の教員に自分から「これ、どうやって解くと？」と聞いたり、同級生のミニ先生から説明を聞いたりする様子が授業中に多く見られるようになった。これは、「何がわからないのかがわかるようになった」姿だと考える。自分は今、何をすればいいのかという見通しを持ってきた証拠ではないかと考えている。



その他エピソード（画像などを含めて）

- ・ 読書をするようになった。（図4）4～8月の貸出冊数7.6冊/月に対し、9～1月の貸出冊数は12.2冊だった。このことも学習活動を能動的に取り組めるようになった要因の一つであると考え。
- ・ 母親からも「ビデオ鑑賞しかしていなかったのに、読書できるようになった。最近は家庭でもよく本を読んでいる姿を見る。」と聞いている。
- ・ chromebook での音声読み上げは、若干遅めの読み上げが良いと言い、その速度で実施した。
- ・ 学習のはじめに級友の声かけに応じて開始時に着席している。また、授業中に板書をノートに写したり、課題提出をしたりするなど、みんながして当然と考える行動ができるようになってきた。



今回の研究から、考えられる本児の支援について中学校へ以下のように伝えたい。

- ・ 友達を含め、他人に対して親しさが増すと、相手の立場を考えた言動を取ることができる。
- ・ 肯定的な言葉かけを受け入れるので、肯定的な言葉かけは本児の意欲につながりやすい。
- ・ ICT 機器を活用することで、自ら問題に取り組むことも可能である。が、使いこなしているとはいえないので、使い方の練習を続ける必要がある。
- ・ 視覚的にも聴覚的にも情報入力に弱さがあるので、いかにそれを補っていくか。また、そのことについて本児を交えて話し合い、工夫していくことで本児の意欲を維持させていけるのが支援の要である。